どうわの うみへ

海の子サブ

有馬志津子・作
アリマ・ジュンコ・絵

太平けっさく童話●どうわのうみへ①
海の子サブ
一九八〇年五月一〇日　第一刷発行

著　者　有馬志津子
画　家　アリマ・ジュンコ
発行者　崔　容徳
発行所　株式会社　**太平出版社**
東京都千代田区神田神保町一-四六-二　美成社ビル
電話＝〇三-二九五-三五三(代)　振替＝東京一-九九五六三
落丁・乱丁本はおとりかえいたします
定価はカバー・オビ・スリップに表示してあります

913　有馬志津子
海の子サブ
太平出版社　1980
80 P　22cm
どうわのうみへ①

どうわの うみへ

海の子サブ

有馬志津子・作
アリマ・ジュンコ・絵

太平
けっさく
童話
880円

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com

筆者紹介

有馬志津子　ありま しずこ

一九二五年福井県に生まれる。福井県立三国高女卒業。日本児童文学者協会会員。絵本や幼年童話で活躍している。おもな作品に『ぞうのあかちゃん』(太平出版社刊)、『アントワープの木ぐつ』『いたずらピカロ』『さよならよさえむさん』などがある。

アリマ・ジュンコ

一九四九年東京に生まれる。学習院大学仏文科卒業。在学中から童話やさし絵をかきはじめる。児童出版美術家連盟・現代童画会会員。『ぞうのあかちゃん』など有馬志津子さんと母子で組んだ作品も多い。

海の子サブ

有馬志津子・作　アリマ・ジュンコ・絵

太平出版社

まっ黒に日やけしたサブは、海のにおいがする。

三年生にしては、ちびだ。でも、かぜひとつひいたことのないからだは、くりくりして、どこをおしても、はねかえしそうだ。

五月になると、サブは、もうお天気さえよければ、まいにち海へいく。

学校からかえると、えんがわへかばんをなげだして、さっとかけだす。まるでマラソンのおりかえし点だ。かあちゃんにえり首でもつかまれないかぎり、夕方までもどらない。

「はらへったあ！」

いばって、うすぐらくなったえんがわへあがってきて、かあちゃんからいきなり、バーンとおしりをぶたれることがある。

そんなときのかあちゃんは、たいてい、かばんからでてきた、くしゃくしゃのテストをにぎっているからふしぎだ。どうして、わかるのだろう。

水につかりすぎて、手のひらや足のうらが、まっ白にふやけたサブが、

「うおーっ。」

と、ほえるようになきたてると、耳のとおいばあちゃんまでが、びっくりする。

「またかい。かあちゃんに、あやまれ。」

ばあちゃんが、しんぱいそ。

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com

うによってきてなだめても、サブはぜったいにあやまらない。
かあちゃんのほうで、うるさくてがまんできなくなって、
「やめろっ。」とくるまで、なきたてる。
そして、黒い顔をまっかにして、くってかかる。
「テストだけできめちゃ、いけないやい！　先生がいったぞ。なんでもいい、ひとつでもいいから、人にまけないことができる人間になれって。おれ、およぐことなら、四年のやつにだって、五年のやつにだって、まけないんだぞう！」
サブは、灯台から、いりえのかなり大きな湾を、およいでよこぎることができる。三年生では、たったひとりだ。てん

ま船だって、もうじょうずにこげる。
サブはおもう。
（ああ、はやく、ポンポン船のサンゴ丸にのりたいな。とうちゃんや、にいちゃんたちといっしょに、とおいおきまでいってみたいな。」
しかし、とうちゃんは、なかなかサンゴ丸にのせてくれないのだ。
「来年の夏休みまで、まて。」
と、いつもきまっていう。

「いつの来年だあ。きょ年も、そのまえも、そういったじゃん、やくそくしたじゃん！」

サブは、こんどこそきかなかった。

きょうも、とうちゃんは、イカつりにでかけるしたくをしながら、いったのだ。

「サブみたいなチビッコに、船の上でうろちょろされちゃ、しごとができんわい。ろくにおよげねえくせして。」

「およげるわい！　おれは、五年生にだ

ってまけねえんだぞう。しらないのは
とうちゃんだけだあ、んもうっ！」
サブはくやしくなって、
しゃくりあげてしまった。
すると、にいちゃんが、
わきからいってくれたのだ。
「いいじゃないか。おれだって、三年生の夏休みから、じいちゃんのおゆるしがでて、サンゴ丸にのせてもらったんだ。

ちびだって、もうだいじょうぶさ。おれが、かんとくすっから。」

「サンキュ！」

サブはかんげきして、にいちゃんにだきついた。にいちゃんは、ずでんとサブにせおいなげをかけ、むねをそらしていった。

「いいか。そのかわり、おれのめいれいには、ぜったいふくじゅうだぞ。」

「ハイ、カントク！」

サブははねおきて、右手を高くあげた。

「よし！　今夜、つれてってやろう。」
にいちゃんがえらそうに、あごをしゃくると、あかちゃんにおっぱいをのませていたかあちゃんがいった。
「いたずらしたり、いうことときかなかったりしたら、えんりょせんでもいいよ。海へほっぽりだして、フカにでもサメにでも、くわせてやりな。アッハッハ。」
男みたいにわらっているかあちゃんのふとったせなかを、サブはパシッとぶった。
ばあちゃんはいった。
「よかったな、サブ。やっとのっけてもらえて……。なあ、

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com